

医学生のためご

5月号

GWは何をしよう

「もちろん勉強です！」という方がほとんどでしょうか。高校での医師講演の際に、研修医の先生は高校生へ「先取りして勉強をしていくといい」と伝えていました。学校のカリキュラムによって教科の進捗は異なるので、受験科目数の多い医学部は先取りが大切なんですね。モチベーションを保つためにも、たまには勉強場所を変えてみたりと気分転換もしてみてくださいね。夏休みには、医師体験や模擬面接への参加を待ってます！

奨学生活動の紹介

千葉民医連には、医学部奨学金制度があります。現在、6名の奨学生がおり、奨学金の貸付だけでなく、学習や交流の機会を作っています。今年4月には6年生だった奨学生3名が千葉民医連の船橋二和病院で初期研修を開始しました。勤務による奨学金の返済免除があることもまた特徴です。

今回は奨学生の2泊3日の沖縄平和合宿の様子をご紹介します！

当日は奨学生5名、医師・職員4名が参加しました。今回の企画は、奨学生から「沖縄について現地で学びたい」という声が出されたことをきっかけに始まりました。この合宿により、平和を「学がテーマ」としてではなく、医療・介護の前提として捉え直す機会となりました。

25年7月に行動提起を行い、9月には沖縄戦や基地問題について学習、12月には学生自身が関心を持ったテーマを発表し合い、「沖縄で何を学びたいのか」を深めてきました。



沖縄では、辺野古基地や普天間基地、沖縄陸軍病院南風原壕、糸数アブチラガマ、ひめゆり平和祈念資料館、沖縄県平和祈念資料館を見学しました。参加した学生からは、「基地と住宅地の近さ」「壕の暗さや狭さ」など、現地でしかわからない現実に触れたという感想が出されました。

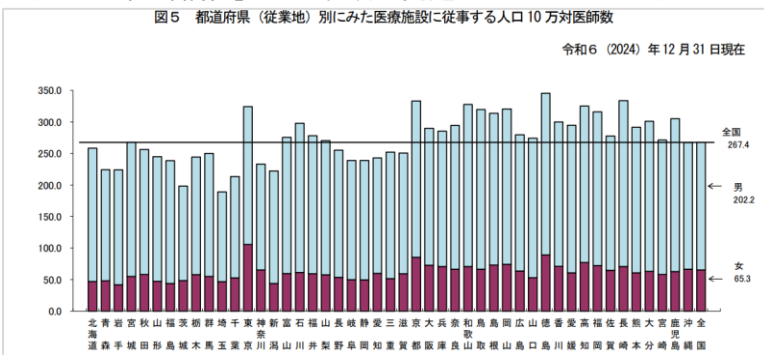
振り返りでは「データや知識だけでなく証言や現地で感じる事が大事だと実感した」「沖縄の問題を遠いことではなく自分ごととして考えるようになった」との声もありました。多くの証言や戦跡に触れるなかで、平和がなければ、あたりまえの暮らしも、それを支える医療・介護も成り立たないことを、学生一人ひとりが実感する機会となりました。

医療と平和は切っても切れないテーマです。平和学習でもその他テーマでも、興味のある方はぜひ奨学生となって、一緒に学んでいきましょう！



キーワードを深めよう 『医師不足②』

前回、日本の医師数はOECD平均3.5人に対し、2.4人。世界平均に対して、「医師不足」ということが分かりました。では、「医師偏在」という表現は間違いなのでしょうか。



今回は都道府県ごとの医師数を調べてみましょう！みなさんの目指す大学所在地はどうなっていますか。

左図は厚労省が2024年に出した医師数の概況です。都道府県別に見ると、「医師偏在」が起きていることが見て取れます。ちなみに、千葉県は下から3番目です！このことについて考えることは、千葉県地域枠を狙う生徒にとって大切なことだと思います。

他にはどんな「偏在」があると、みなさんは予想しますか。

【お問い合わせ】

千葉県民主医療機関連合会（千葉民医連）

TEL：043-224-7497